

令和5年度夏季特別展

「鬼柴田」勝家の実像 ～武勇と統治に長けた忠義の臣～

現在、徳川家康を主役とするドラマが放映されており、戦国時代への関心が高まっています。戦国時代の福井と言えば、まず朝倉氏を思い浮かべる方もいるかもしれません。しかし一方で、柴田勝家ゆかりの柴田神社と西光寺が中心となり、今年4月に華やかな武者行列が行われたことは記憶に新しく、勝家への注目も集まってきているように思います。

織田信長の重臣として越前を治めた勝家は、「鬼柴田」という異名を持ち、武勇に秀でた武将として従来からよく知られています。本展では、もちろん、そうした勝家の武勇に注目するとともに、勝家の越前支配にも焦点を当て、勝家の統治手腕を探ります。果たして、勝家は武勇一辺倒の武将だったのでしょうか。さらには、信長の死後、なぜ勝家が天下人になれなかったのかという疑問について、最新の研究を踏まえ、考えていきます。その過程では、勝家の織田家に対する厚い忠義が浮かび上がってきます。



柴田勝家画像(柴田勝次郎氏所蔵)

ここに、「鬼柴田」勝家ゆかりの資料を一堂に会し、その実像に迫ります。

1. 越前入部までの動向 ～織田家中筆頭重臣への道～

まず、勝家が越前に入部するまでの動向を紹介します。勝家の生年については、諸説があり、確定していませんが、大永2年(1522)頃とする史料が多く、勝家は信長より10歳以上も年長であったと考えられます。出身地についても、諸説がありますが、尾張上社村もしくは下社村であった可能性が高いとされています。それゆえ、勝家は尾張の有力領主である織田信秀に仕えたのでしょ。はじめは、信秀の子で信長の弟に当たる信勝の家老となり、信秀の後継をめぐる争いで信長と戦いましたが、敗れました。以後、信長に仕えて、生涯、忠義を尽くし続けました。その背景には一度叛いてしまったという負い目があったのかもしれませんが。そうした信長と勝家の信頼関係を象徴的に示す資料として、重要文化財 青井戸茶碗 銘 柴田(根津美術館所蔵)を展示します。これは信長が信頼する勝家に与えた名品です。



重要文化財 青井戸茶碗 銘 柴田(根津美術館所蔵)

その後、勝家は信長の指示に従い、京都や畿内、近江、伊勢、越前などへ転戦し、数多の合戦で戦功を積

み重ねます。さらには、京都での行政文書の発給や公家への饗応などの政務で手腕を発揮し、近江長光寺城主として所領の安堵や相論の裁許などの領域支配も進めました。まさに、軍事と政事にわたる八面六臂の活躍によって、織田政権の急速な拡大を推進し、その過程で政権幹部まで上り詰めたのです。その後、天正3年(1575)には、信長に従い、一向一揆の支配する越前へ出兵して越前を再制圧し、越前の支配を任されることになりました。

本章では、主に、勝家の勇猛さを示す刀剣や馬印などに加え、勝家に関わる行政文書なども展示し、勝家の武勇と統治手腕に迫ります。

2. 越前支配の実態 ～勝家の統治力～

天正3年9月、信長は大国の越前を家臣に預け、信頼できる重臣の勝家を越前支配の中心人物として選任しました。勝家は越前の諸将を統率し、越前一向一揆や隣国の加賀一向一揆、その背後に位置する越後の上杉謙信など、北陸方面の攻略を目指しました。勝家が領内の村々に提示した掟書によれば、自身の居城となる北庄城の普請をはじめ、北陸方面を攻略するための軍事的な人足や資材の徴発を行う一方で、一向一揆により荒廃した村々の復興をも進めていたことが分かります。すなわち、軍事と政事のバランスを見極めながら、政策を実行していたのです。

そうした状況で進められたのが、北庄城と城下町の建設でした。天正3年9月、信長自らが北庄に赴き、城に適した場所を選定し、城の基本的な設計を勝家に指示しました。北庄の地は足羽川と北陸道の交わる交通の要衝で、これ以前から町場が形成されていました。信長が越前支配の新拠点として北庄を選んだのは、かつて越前を治めていた朝倉氏の拠点である一乗谷に比べると、交通面や経済面をより重視した結果と考えられます。

勝家は村々からの過度な徴発を抑えつつ、壮大な城の建設を進めました。北庄を訪れたポルトガル人宣教師のルイス・フロイスが「城並びに他の多数の家々の瓦(中略)はことごとく立派な石で作られ、その色により城にいっそうの輝きを添えている」(『十六・七世紀イエズス会日本報告集』)と述べたことから、城の屋根瓦には越前の名産である笏谷石が使用されていたことが分かります。また、後年に北庄を攻めた羽柴秀吉が「天主を九重に」(毛利家文書)と述べたように、九重の天守が築かれていたようです。北庄城の天守の具体的な構造は不明ですが、信長の居城である安土城の五層七階の天守と比べて遜色ない、美しく壮大な出来映え

であったと想像されます。



伝北庄城跡出土石瓦復元(福井市所蔵)

また、勝家は、天守の北側に武家地を割り当て、西側の北陸道沿いに町場を配置して国内外の商人・職人や領内寺社の移住を促しました。町場の入り口に架かる半石半木の九十九橋を改修したことも知られています。こうして、フロイスが「安土のおよそ二倍の大きさ」(『十六・七世紀イエズス会日本報告集』)と述べたように、安土の約2倍も大きい、広大な城下町が出現しました。さらに、勝家は城下町に町奉行を設置し、北庄法度なる法令を定め、城下町の統治を進めました。楽座令を出し、商人を統制したことは有名です。以上のように、勝家は、信長の安土城やその城下町に匹敵する、あるいは、それを凌ぐ、壮大な北庄城と広大な城下町を建設し、また城下町の統治を進めており、その手腕は注目されるどころです。

勝家が行った政策として、検地の実施と家臣団の編成も注目されます。天正4年11月には、ついに越後の上杉謙信が能登に進出し、軍事的緊張が高まりました。それを受けた勝家は、翌年早々、村々の復興に留意しつつも、越前一国規模で検地を実施して軍事動員の体制を整えました。この越前検地は、それまでの徴税単位であった荘や名を廃止し、百姓の住む村の境を決める村切を行い、近世に続く村を徴税単位とするもので、朝倉氏時代の越前にはない新しい政策でした。また、この村を単位として、田・畑・屋敷などの面積を把握し、統一の基準で石高を算出し、年貢の収納を請け負わせました。こうした検地方法は、他の信長家臣の検地にも影響を与えた先駆的な事例であったとされています。さらに、勝家は、この検地によって確定した村の年貢を知行として自身の家臣へ給付し、知行の額に応じた数の戦闘員・武器などの供出と軍事の遂行を定めました。換言すれば、一斉に統一した基準で検地を実施し、村と家臣の関係を一律に把握し、機械的かつ効

率的な軍事動員を可能とする体制を構築したわけです。この点からも、勝家の統治手腕が注目されます。

本章では、そうした勝家の統治力を物語る資料を展示します。

3. 信長死後の動向 ～勝家の忠義と秀吉の野望～

勝家が北陸方面を攻略していたさなか、天正10年6月、本能寺の変が起きました。信長が明智光秀の謀叛により横死したのです。ここでは、信長死後の勝家の動向を示す資料を展示し、なぜ勝家が天下人になれなかったのかを考えます。

近年、本能寺の変直後における勝家の動向を記した手紙が発見され、勝家が信長の弔い合戦である山崎の戦いに間に合わず、秀吉に先を越されて光秀を討ち取られてしまった理由が明らかになりました。それは、勝家が秀吉と比べて地理的に不利な位置におり、北陸・近江・若狭など自身を取り巻く情勢が悪く、それらに慎重に対応せざるをえなかったというものでした。また、先述の手紙には、勝家の考えが示されており、勝家は「信長在世時の政策を継承して発展させることが責務で、家臣が相談して事を進めれば天下平定が叶う」(溝口家文書)と構想していたことも分かりました。信長かつ織田家に忠実で、家臣の連携を重視した勝家は、その後も一貫して、その姿勢を貫きました。

山崎の戦い後、織田家の主だった一族と重臣が尾張の清須に集まり、会議を行いました。そこでは、勝家・秀吉ら四人の重臣の合議で政務を執ることに決まりました。加えて、山崎の戦いで最大の功績を挙げた秀吉が、播磨に加えて山城・丹波・河内など最大規模の所領を得ることになり、勢力を伸長させました。近年の研究によれば、この段階では、勝家と秀吉の明確

の対立はまだ見えないとされています。しかし、その後、秀吉が信長の三男である信孝と対立していくなかで、織田家への忠義と家臣の合議を重視していた勝家は秀吉の独断専横に不満を募らせていきました。「信長様が苦勞して治めた国を守るべきところ、挙句の果てには友喰をして国を奪われてしまう」(徳川記念財団所蔵文書)と秀吉を批判した勝家の手紙が残っています。しかし、秀吉は勝家と和解することなく、信孝が謀反を企てたのは勝家のせいだと非難し、政権から信孝・勝家を排除すると決め、清須会議での決定を反故にしたのです。

天正11年、ついに、勝家と秀吉の両軍は近江北部で対峙しました。賤ヶ岳の合戦です。勝家軍は一時、猛攻を見せ、勝利を得ましたが、最終的には秀吉軍の突撃によって総崩れとなり、越前へ撤退しました。北庄城に籠った勝家は、秀吉軍に一気に攻められ、自害しました。秀吉自身の手紙には、「勝家は天守の九重目に登り、周りの軍勢に言葉を発し、自らの切腹の様子をみて後学にせよと述べ、ひっそりと静まり返るなか、妻子や一族を刺し殺して自害した」(毛利家文書)と記されています。いかにも武勇に秀でた勝家らしい壮絶な最期でした。加えて、秀吉は上記の手紙で、「天下の趨勢を決するのはまさにこの時と思いつて城を攻め、北国・東国に次いで中国の毛利氏が自分に従えば源頼朝以来の天下統一となる」と述べており、少なくとも勝家との対決を決めた時から、自身が天下を治めるという野望を自覚していたことが分かります。秀吉にとって勝家とは、それほど大きな相手であったとも言えます。

忠義を貫いた勝家と、野望を自覚した秀吉。その点にこそ、天下人への分かれ道があったのです。

(大河内勇介)



賤ヶ岳合戦図屏風 右隻(長浜城歴史博物館所蔵)

令和3年度より、福井新聞に福井県の文化施設の職員が寄稿しています。福井県立歴史博物館の学芸員は、新聞に月に1回掲載される「歴史の扉」欄で、日々の調査の中で気がついた面白いこと、楽しいことなどを執筆しています。福井新聞社より「歴史の扉」の画像提供とご協力を得て、過去に掲載された「歴史の扉」を紹介させていただきます。

令和3年(2021年)9月26日(日曜日)



みなさんは、福井県立歴史博物館を訪れたことがありますか？今回は、私が働く福井県立歴史博物館について紹介します。



橋本絳希学芸員(近現代史)

「宝の蔵」に15万点超

することです。つまり、これまでの福井の歴史やくらしを

未来に伝える「宝の蔵」のようなものだと考えています。



昔の生活の道具などを紹介しているオープン収納庫

大切な仕事、その作られた時代や使われ方、福井の歴史とのかかわりなどについて詳しく調べていくことです。

また、このほかにも、地域の歩みを紹介する「歴史アーカイブ」今から60年ほど前の、おじいさんやおばあさんが子

どもだったころのくらしを紹介する「昭和のくらし」、そして昔の生活の道具などを紹介する「オープン収納庫」という三つのコーナーで展示を行っています。

「歴史の扉」は、この博物館という宝の蔵の入り口です。扉を開いて、学芸員が「これは福井の歴史や生活を知るために欠かせない資料だ！」とか、「面白いのでみなさんにぜひ知ってほしい！」と考えたお宝を紹介していきます。ぱっと見ただけでは何に使うのかよく分からないものから、身のまわりで見たことのあるものまで、いろいろな資料が登場します。さあ、歴史の扉の向こうを一緒に探検しましょう！

令和3年(2021年)10月24日(日曜日)



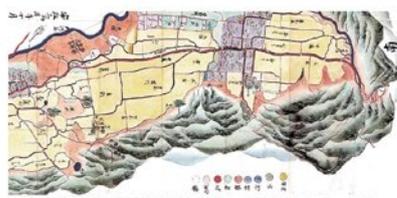
今回みなさんにご紹介したい宝物は、今から150年以上昔江戸時代の「絵図」です。絵図は、現在の地図のようなもので、当時の景色を手描きしたものです。現在のよう



伊藤大生学芸員(歴史地理学)

絵図に150年前の景色

福井県立歴史博物館にはいくつもの絵図がありますが、その中から今回は、上大坪村と菅谷村(どちらも現越前市)を描いた安政3年(1856)の絵図を紹介します。



今立郡上天坪村菅谷村朝田二付裁許絵図(部分) 福井県立歴史博物館蔵



「歴史の扉」は、この博物館という宝の蔵の入り口です。扉を開いて、学芸員が「これは福井の歴史や生活を知るために欠かせない資料だ！」とか、「面白いのでみなさんにぜひ知ってほしい！」と考えたお宝を紹介していきます。ぱっと見ただけでは何に使うのかよく分からないものから、身のまわりで見たことのあるものまで、いろいろな資料が登場します。さあ、歴史の扉の向こうを一緒に探検しましょう！

令和3年(2021年)12月26日(日曜日)



「杉田玄白」という人を知っていますか。江戸時代の小浜藩の医者で、「解体新書」という本を出版した福井県ゆかりの人物として有名です。



有馬香織学芸員(歴史資料)

解体新書の「謎解き」

その「解体新書」の本物を展覧会で「見たことがある」と人もいるかもしれませんが、これは木版で刷られた本なので所蔵しているところは全国にあります(筆で書いた一点物の原稿は見つかっていません)、特に福井県では、小浜市立図書館、県立図書館、県立若狭歴史博物館、県立歴史博物館とたくさん施設で所蔵していますから、他府県に比べて福井県は本物に出合う機会に恵まれていると思います。



「解体新書」の中扉(福井県立歴史博物館蔵)

でも、私は、できれば皆さんには、本物を見る機会がなくても「見たことがある」で終わらせてほしくないのです。



「解体新書」の本の広告

私は、県立歴史博物館の「解体新書」を見た時に「県内の他の解体新書と何か感じが違うな」と不思議に思いました。すると、歴史博物館の「解体新書」の終わりの数ページだけに「本の広告」が載せられていることがわかりました。

そして、その広告から歴史博物館の「解体新書」は、安永4(1775)年末から安永7年3月の間に世に出たものと出版年が特定できました。「解体新書」は安永3年刊行とされていますが、歴史博物館所蔵の「解体新書」は、一般向けに再版されたうちの1冊であったようです。また、広告ですから、「解体新書」と一緒に店先に並んで

いた本のことわかりました。例えば、俳諧の本、松尾芭蕉の本もリストに出てきます。ジャンルもさまざまです。中国の地図の本、生け花の本、地名の本、「七観音経」というお経の本、百人一首の解説書などなど。

江戸時代の人が「次はこの本を読みたいな」と思うような実用書のラインアップなのでしょう。

単なる広告とみればそれまでですが、気が付けば次々と「解体新書」をめぐる世界が広がって見えます。

皆さんも不思議に思える宝物と出合えるときではないでしょうか。疑問からの謎解きは楽しいものです。

「ふくい箱ファイル」は1月16日に掲載します。

令和3年(2021年)11月28日(日曜日)



今回は「狛犬」のお話です。みなさんも近所の神社で見たことがありませんか? 石で造られたライオンのような姿で、境内の左右に1頭ずつ置かれていますよね。

福井県内では、今から五百年以上前から石の狛犬が造られてきました。



群犬寺(浄土寺)
石製狛犬
右製狛犬
左製狛犬
笏谷(福井)
笏谷(福井)



瓜生由起総括学芸員(中近世石造物)

神社の狛犬 昔は小型

造られ、人々は願いがかなったお礼として狛犬を神社に納めてきました。じつは、そうした古い狛犬と現在の狛犬とは、違っている点がいっぱいあります。

造りのひとつめは、狛犬のいる「場所」です。古い狛犬の多くは、神社の建物の中や庇の下に置かれていました。神様に近い場所で、神様を守っていたわけです。



小型狛犬はこんな大きさ!

ふたつめは、大きさです。古い狛犬、とくに江戸時代以前に造られたものは、現在の狛犬と比べると半分か、それより小さいものが多いのです。畿北地方には、もっと小さな、高さ10センチ程度の狛犬も残されています。まるで「手乗り狛犬」です。

三つめは数です。現在は神社の境内に2頭(セットで「一対」といいます)の狛犬が一般的ですが、古い狛犬はいくつも残されていることが多いです。手乗りサイズの小さな狛犬の場合は、ひとつの神社で何十個も見つかることもあります。

四つめは、材料である石の種類です。現在は外国産の石が多いのですが、かつては福井県北地方では足羽山(福井市)周辺で採れた「笏谷石」、嶺南地方では日引(高浜町)で採れた「日引石」が利用されていました。地元で、地元職人が造っていたのです。

今とは違う、福井の昔の狛犬たち。歴史博物館でも展示していますから、見に来てください。それに、もししかしたら、みなさんの近所の神社にもあるかもしれません。お祭りや初詣のときに、神社の中をそのとぞいでみて、超えて、小さな石の狛犬と出会えたら、すてきだと思います。

令和4年(2022年)4月24日(日曜日)



写真は現在の九頭竜川の下流、福井市と坂井市の境目あたりの景色です。現在は堤防のほか、上流にはダムが築かれており、梅雨や台風などで増水しても水があふれることはほとんどありません。しかし、このあたりには明治32(1899)年まで堤防はなく、毎年のように水があふれていました。当時の地図



伊藤大生学芸員(歴史地理学)

堤防なぜなかった

を見ても堤防は描かれておらず、畑(白い部分)が広がっていたことが分かります。堤防がなかった理由は何だったのでしょうか。時は江戸時代にさかのぼります。当時は、村を治める藩などが村ごとに異なることがよくあり、幕府が、となり村は福井藩が治めている、ということでも、九頭竜川の下流でも、幕府や福井藩などが村を治めています。そして、藩などが異なる村がとなり合っていた場合、堤防が築かれないこと

九頭竜川と堤防(4月、坂井市)



もよくありました。自分の村だけに堤防を築けば、別の藩の村に水が流れ込み、問題となつたためです。明治4(1871)年の廃藩置県以降、県は堤防を築くよう各村に指示しました。しかし、川に近い住む村人たちは、川沿いの畑が埋め立てられると困ることなどを理由に反対しました。当時、彼らは、川沿いの畑で菜種や大豆などを育てて売り、そのお金で対岸の村々から白米や薪を買って生活していたからです。

また、川沿いの畑は高く盛り上がり、川からこれまでもその地に住んでいた人々の生活や価値観を知ることにもつながります。今、目の前に広がる景色も、歴史を知る扉なのです。

令和4年(2022年)3月27日(日曜日)



戦国時代、越前を治めた朝倉氏に仕え、3肩を超える大太刀を振るった豪傑として名高い真柄十郎左衛門。彼は、後世の記録や講談のほか、現在でも、漫画・アニメ・ゲームなどのさまざまな媒体で登場しています。全国的に知名度の高い、福井の



大河内勇介学芸員(日本中世史)

越前の豪傑新資料発見

有名なのです。ただ、彼が生きていたところに記された信

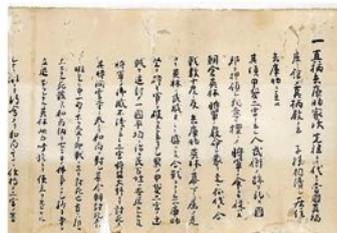
頼できる資料はなく、実態は謎に包まれたままでした。

ところが昨年2月、当館で発見した、この真柄十郎左衛門に関する新資料を発見しました。そして、新資料を読み解いていくと、これまで知られていなかった事柄が次々と浮かび上がってきたのです。

たえば、真柄十郎左衛門と称した人物が2人いたことが分かりました。真柄家正とその息子の直隆です。そして、後の時代になると、この家正と直隆の2人が真柄十郎左衛門という1人の人物として伝承されてしまった可能性が出てきたのです。

また、真柄十郎左衛門のみならず、他の真柄一族も戦場で大太刀を振るっていたことが明らかになりました。現在、真柄が使用したとされる大太刀が全国各地に伝来していることも、実は、不自然ではないのです。

さらに、真柄十郎左衛門を称した家系は実は分家であり、他に、本家があったことも判明しました。本家の家系の子孫は、後に福井藩に医者として仕えました。「武」で名を馳せた真柄一族は、「医」に転じて、江戸時代を生き抜いていったわけです。



新資料の真柄氏家記寛書(県立歴史博物館蔵)



姉川合戦図屏風(県立歴史博物館蔵)に描かれた真柄十郎左衛門

この新資料を含めた、戦国越前に関する資料を展示する「戦国越前の謎を解く―真柄十郎左衛門の正体など―」(5月10日まで)を開催しています。ぜひ、歴史のおもしろさを体感してみてください。

9月

- 8日(木) あわら市郷土歴史資料館 資料返却・借用
- 15日(木)～12月27日(火) 写真展「商店街の風景」 福井県教育庁生涯学習・文化財課 指定文化財調査
- 16日(金) 清水南小学校3年生 団体見学 国高小学校5年生 団体見学
- 21日(水) 美浜町歴史文化館 資料借用
- 28日(水) 昭和のくらし模様替え(秋)
- 30日(金) 山代小学校3年生 団体見学

10月

- 1日(土)～14日(金) 福井県地域福祉課による拉致問題啓発ポスター展示とアニメ「めぐみ」上映
- 6日(木) 春江東小学校3年生 団体見学
- 7日(金) 東藤島小学校3年生 団体見学
- 11日(火) 王子保小学校3年生 団体見学
- 14日(金) 雄島小学校3年生 団体見学
- 22日(土)～11月27日(日) 特別展「百貨店の近代」
- 24日(月) 福井県陶芸館 資料調査
- 25日(火) 円山小学校3年生 団体見学 松岡中学校見学 福井大学 団体見学
- 26日(水) ブラジル研修生特別展見学
- 27日(木)～28日(金) 明道中学校2年生職場体験
- 28日(金) 福井農林高校2年生 団体見学 森田小学校3年生 団体見学 坂井中学校1年生 団体見学
- 30日(土) 特別展「百貨店の近代」展示説明

11月

- 1日(火) 福井工業専門学校1年生 団体見学
- 2日(水) 進徳小学校3年生 団体見学 上庄中学校見学
- 3日(木) 特別展「百貨店の近代」展示説明
- 4日(金) 森田小学校3年生 団体見学
- 5日(土) 特別展記念トークイベント「昭和モダンの光と影～だるま屋少女歌劇と『遠の眠りの』の世界～」(作家・近畿大学文芸学部准教授 谷崎由依先生)
- 11日(金) 啓蒙小学校3年生 団体見学
- 12日(土) 大阪公立大学 特別展団体見学
- 13日(日) 特別展「百貨店の近代」展示説明
- 15日(火) 春江小学校3年生 団体見学
- 17日(木) 和田小学校3年生 団体見学 つぼみ保育園 団体見学
- 18日(金) 兵庫小学校3年生 団体見学 松本小学校3年生 団体見学
- 19日(土) ふくい歴博講座「福井と百貨店の近代史」
- 20日(日) 特別展「百貨店の近代」展示説明
- 21日(月)～22日(火) 北陸中学校1年生来館
- 22日(火) 木田小学校3年生 団体見学
- 25日(金) 福井東特別支援学校 見学

12月

- 1日(木) 高椋小学校3年生 団体見学 あわら市郷土歴史資料館 資料調査
- 2日(金) 大関小学校3年生 団体見学 中藤小学校3年生 団体見学
- 7日(火) 神山小学校へ出前授業
- 8日(木) 成器南小学校へ出前授業
- 9日(金) 羽生小学校へ出前授業
- 12日(月) 北瀧小学校へ出前授業
- 13日(火) 有終小学校へ出前授業 福井県立こども歴史文化館 資料返却
- 14日(水) 栗野南小学校へ出前授業

1月

- 3日(火)～5月9日(火) 写真展「没後100年 御用写真師・丸木利陽とその作品」
- 17日(火) 福井市立郷土歴史博物館 資料調査
- 20日(金) 石川県海女文化研究所 資料調査 熊川小学校へ出前授業
- 24日(火) 南条小学校3年生 団体見学 平章小学校3年生 団体見学
- 28日(土) 個人 資料調査
- 31日(火) 長畷小学校3年生 団体見学

2月

- 1日(木) 三国南小学校3年生 団体見学 河合小学校6年生 団体見学
- 2日(木) 春江西小学校3年生 団体見学
- 3日(金) 上志比小学校3年生 団体見学
- 7日(火) 木部小学校 団体見学
- 9日(木) 酒生小学校 団体見学
- 10日(金) 志比北小学校 団体見学
- 13日(月) 加戸小学校 団体見学 福井市立郷土歴史博物館 資料調査
- 18日(土) ふくい歴博講座「狛犬たちのいるところ」
- 20日(月) 志比小学校3年生 団体見学
- 21日(火) 運営協議会
- 22日(水) 福井県博物館協議会視察研修 (福井県立一乗谷倉氏遺跡博物館)
- 28日(火) 美浜町歴史文化館 資料調査

夏季特別展

「鬼柴田」勝家の実像
～武勇と統治に長けた忠義の臣～

開催期間：令和5年7月29日(土)～9月3日(日)

※会期中無休

観覧料：一般400円 大学・高校生300円

小中学生・70歳以上の方200円

※20名以上の団体は2割引

※会期・内容は、予告なく変更される場合があります。

公式サイトなどで最新の情報をご確認の上、ご来館くださいますようお願い申し上げます。